

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390201121		
法人名	社会福祉法人 和福祉会		
事業所名	グループホーム庄の里「和らぎの家」全体		
所在地	倉敷市上東819番1		
自己評価作成日	平成30年2月23日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく広いフロアといつでも声が掛けあえ、会話が楽しめる空間を作っています。クラフト活動を毎日取り入れ季節を感じる作品作りを皆で行い、完成した達成感により意欲を引き出すように支援しています。施設の壁や、文化展に展示を行い作品作りの事を思い出す楽しみを作っている。又脳トレを毎日取り入れ利用者の方のやる気を引き出す事に力を入れています。近隣に保育園や中学校があり、子供たちの姿が施設から見え、散歩時には子供達や地域の方と挨拶を交わし地域交流が出来る恵まれた環境にあります。保育園との交流も芋掘り等行事として取り入れて楽しみとなっています。元気な挨拶、明るい笑顔、丁寧な仕事を理念として、家庭的な雰囲気を大切にしています。好きな事や個々に役割を持つことで元気で楽しい生活が出来るように支援しています。利用者ご家族の思いを暮らしの中に取り入れ、人と人とのつながりを大切に支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390201121-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成30年3月6日

ホームに着くと、玄関先にホーム長と一緒に息子さんを見送りに出ている人に出合った。「また来てな」と声をかけ、車が見えなくなるまで見送っている姿に、家族との絆をしっかりと支援していこうとしているホームの有り方・姿勢を強く感じた。庄の里「和らぎの家」は開設丸3年経ち、4年目に入った。1Fはこの1年間に入退居や入院も無く、3年経って利用者も落ち着いてきたが、対照的に、2Fは内的要因の症状がある人の入所が多く、入れ替わりが激しく落ち着かないと聞いた。職員の変動も大きかった1年であったが、ホーム長は長年の経験を活かし、様々な波風を乗り越えながら、運営の基盤を軌道に乗せる努力をしている。子育て中の母親にとっては働きやすい職場であり、短時間勤務は心の余裕を生み、良い形で利用者へ反映されるというメリットがある。「職員が喜ばないと利用者に対して良い介護は出来ない。職員を大切にしよう」といつも思っている」と言うホーム長の言葉が心に響いた。地域の開かれたホームを目指して今後も頑張ってください。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて、職員が理念の唱和を行い共有し実践している。又ご家族への満足度アンケートより、職員の理念の再確認を実行している。	理念の文言を毎日唱和する事で、職員間で理念をよく認識し、実践する事でケアの向上を目指している。社会との交流や外出支援に力を入れており、また、ホームが馴染みの場所となり「第二の我が家」と思って安心して生活が出来るように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と畑を利用して、芋の苗植えや収穫をおこなったり、地域のイベントにて、馴染みの方との交流を行ったり、運営推進会議での繋がりからご家族、地域の方の参加により交流をしている。	法人の中での様々なイベントに参加して地域の人とも交流をしたり、幼稚園・小学校・中学校がすぐ近くにあり登下校時の子供との触れ合いもある。隣の小規模多機能ホームとの交流や散歩の時に近所の人と挨拶や会話を楽しむ事もある等、地域交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域の行事、夏祭り、広報誌やホームページにて「和らぎの家」の運営の様子を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型の小規模多機能「つどいの家」と合同で運営推進会議を行っており、内容の報告や意見を求めたり町内会のサロンの説明会に参加して地域の方に説明を行いサービス向上に努めている。	参加者は行政・地域・家族・利用者等の多彩なメンバーで構成され、隣接する小規模多機能ホームと合同で2ヶ月に1回開催している。運営推進会議に併せて合同避難訓練を行ない、地域の人にも利用者の状況を把握してもらっている。活発な議論が展開されているのが議事録からよく分かる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご家族からの意向で市町村担当者にお問い合わせ等行っている。事業所からも質問を行い協力関係を築いている。運営推進会議に町内の役員の方の出席があり協力関係を築き地域活動に参加している。	地域包括の職員とは運営推進会議の席上で情報提供をしてもらったり意見交換をしている。今年度は市から2名の介護相談員に来てもらっている。庄地区小地域ケア会議で協力関係を構築し、何かあれば市の担当者に相談して助言や指導をいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	採用時にマニュアルの説明や施設内研修等行っている。身体拘束について会議で勉強会を行い周知するようにしている。マニュアルはいつでも閲覧出来るようにしている。	以前は玄関を開放していたが、今は不審者対策の為に施錠をしている。身体拘束をしないケアを実践しており、見守りを徹底している。高齢者虐待防止の研修をし、「動かないで」「待って」等のスピーチロックについても職員はよく認識している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待防止について施設内研修や勉強会を行なっている。定期的に会議等で話し合いを行うようにしており、資料はいつでも閲覧できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修等で権利擁護等について勉強会を行い資料は閲覧出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分な説明を行い納得して頂いた上で署名捺印を頂いている。契約後もいつでも質問等に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見を述べやすいように、意見箱や要望用紙を工夫して、ご家族の意見を頂きやすい環境作りを行う。年度末に満足度アンケートを郵送して意見を頂き取り組んでいる。	担当職員がそれぞれ利用者の生活の様子を書いた手紙に写真を掲載して毎月家族に送っており、他に、定期的に発行される広報誌にも行事や日常の様子が掲載されている。家族アンケートは集計をして、意見・要望を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や全体会議で職員の意見や要望を聞きサービスの向上に努めている。	子育て世代が働きやすい体制を取っているので、パート勤務の割合が多く、正職員と合わせると職員数は多い。毎月、全体会議・リーダー会議・ユニット会議があり、それぞれに様々な課題や運営面、ケアに関して話し合い、日々の申し送り簿で情報の共有をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回施設目標に対して各人目標を設定して達成度を賞与や昇給に反映させ面接を行い各自向上心を持つように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や委員会に属しており各自参加している。施設内研修議事録をサイボーズにて全員が閲覧出来るようにしている。日頃から職員の意見や意向を聞くことを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の運営推進会議に参加し職員に報告行い取り入れたり、他の研修、会議に参加し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報を職員間でカンファレンス等を行い共有して利用開始時に混乱が少なく利用できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前、利用中に本人家族の思い要望を聞いて不安に思うこと等を伺い、その思いに沿ったケアプランや処遇を検討し支援している。状態の変化によりご家族の思いも取り入れ見直しを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族にサービス内容を説明して意向を確認し、思いに添うように努め意見交換を行い支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の気持ちに寄り添い自分に置き換えて考えるように努め共に生活し共有することに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「和らぎの家」の生活の様子や体調面等を面会時や手紙で伝えている。生活体調に変化ある時は、随時連絡して家族と共に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人隣人の方の訪問時に、交流の場を設けている。ご家族の了承あれば友人との外食等行っている。職員は馴染みの関係を作れるように声掛けや話しやすい場を提供し支援している。	玄関先で面会に来ていた家族を車が見えなくなるまで見送っている人を見かけた。家族と一緒に出かけて馴染みの美容院で髪を染めてもらっている人もいる。その他にも墓参りに行く、盆・正月に帰る等、馴染みの場所や人との関係は続いており、途切れる事がないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の気持ちや意向から、フロアの席や環境に配慮して利用者が過ごしやすく落ち着いた生活が出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後いつでも相談出来る体制作りがあることを伝えいつでも連絡頂いて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴やご家族の情報から本人の意向に添った希望や意向を検討して好きな事を提供出来るように支援している。	展示されている「今年の抱負」から利用者それぞれの思いが伝わってくる。「貯金」「長生きできますように」「皆さんと仲良く」等々、ここでの暮らし方や願いが表現されている。日々の関わりの中からも、しっかりコミュニケーションを取りながら思いや意向を聞き出し、職員間で共有しプランに上げるようにしている。	日々の生活の中では、散歩や入浴時等が利用者と職員が一对一で接する事が出来、コミュニケーションを取る良い機会と思うので、その人から思いや意向を引き出せるような会話を心がけ、また、会話を引き出す工夫をして下さい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の意向家族の情報、職員と利用者との関わりから好きな事や生活リズムを把握し取り入れ支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の気持ちをコミュニケーション生活の中から把握し現状の生活の過ごし方をご家族と相談検討し今まで取り組んでいなかったことも提供し好きな事を見つけるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中の課題を職員間のカンファレンス等で共有し本人の意向をケアプランに反映するようにしている。モニタリングにより見直しを行い現状に即した状態のケアプランを作成するように努めている。	本人と家族の状況やニーズを把握し、希望や意向を考慮してその人らしい生活の実現に向けて目標を設定しており、職員間で話し合いながらケアプランを作成している。6ヶ月毎にモニタリングをして見直しを図り、状態の変化に合わせた支援をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を反映して日々の変化を見逃さないようにして、変化がある時は個別記録にのこして申し送りを行いカンファレンス等を行いケアプランの見直し支援するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン作成時利用者本人の意向を聞き作成を行い作成後にご家族のお話や日中の会話から本人の意向を見つけ確認して変更等あれば相談を行いニーズに柔軟に対応出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の意向に添えるよう工夫し支援を行う。又外出の希望があれば計画し実行するように努め地域の行事等に参加している。安全で豊かな生活になるように支援する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に主治医の選択はご家族にお願いし「和らぎの家」の主治医の選択あれば情報の連携を図る。他の医療機関の定期受診はご家族にお願いし都度手紙や職員の同行等にて情報提供をしている。	従来のかかりつけ医を継続して受診する人もいれば、ホームの協力医を主治医とする人もいる。2週間に1回往診もある。認知症専門医や他科受診は原則家族に付き添いをお願いしており、訪問歯科の利用もある。半日勤務であるが職員に看護師が配置されているので、医療と介護の連携が出来て心強い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故体調不良時は、必ず看護師管理者に連絡行い指示を仰いで、主治医への連絡受診等行い職員にも都度連絡ノート等を活用して共有している。ご家族に連絡報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院退院時は本人の面会や家族との連携をとり、主治医等から情報収集を行いカンファレンスを行う。職員間で情報の共有を行い退院時には、生活環境を整え支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、利用者家族と意向を確認して看取りの指針に沿って説明を行い主治医、職員家族で方針を共有しチームで支援していく。	開設4年目に入ったところであるが、重度化や医療が必要となり入院となるケースはあったが、ホームで看取りをするところまでの人はいない。1Fと2Fでは利用者の状態が異なるが、元気な人も多いので今は落ち着いている。看取りをする方向性はあるので、本人・家族の希望があればよく話し合いながら支援していきたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて緊急時の研修を行っている。事故発生時、カンファレンスを行い、応急処置初期対応等の再確認を行い看護師からも指導を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練(日中・夜間想定)を実施している。利用者参加により、避難・誘導・通報訓練、通消化訓練を防災会社の方に協力を得て隣接の小規模多機能「つどいの家」と連携を取っている行っている。	隣接する小規模多機能ホームと合同避難訓練をして、水消火器を使用した訓練や、避難ルートの確認等をしている。地域の人から昔の災害事情の情報があり防災に役立っている。災害時には庄の里の特養施設に避難するようになっており、マニュアルも作成している。	年2回、日中・夜間想定避難訓練をしているが、毎回同じ事をするのではなく、色々なパターンを想定した訓練を試みるのも良い。時には津波対策等、職員間でシュミレーションをしてGH単独の訓練を試してみてください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方を尊重して環境作りを行い、プライバシーを損ねないように努めている。	人生の先輩として尊敬の念を持って接する事を基本として、言葉遣いにも気をつけている。プライバシーや羞恥心への配慮として、トイレには暖簾が掛けてありドアの開閉時にも人目につきにくい工夫がしてある。職員は個人情報保護対策勉強会をして意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日々の生活の中から意向を聞き、散歩やクラフト活動の意向や外出等季節を感じる事が出来る事を聞いて支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各人の思いに添って声掛けを行い体調等各人のペースに合わせて行動したり皆で共有する時間も設けてコミュニケーションを行うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者に服装を選択する声掛けや自主的に着替えを行う方の体調管理の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者各自が役割分がもてる行うようにしている。嗜好を聞き意向を組み入れ嚥下の悪い方には体調に合わせたメニューや食材調理の工夫を行っている。	今日の昼食のハヤシライスを食べながら、職員に「私にも大きいのを頂戴」とスプーンを替えてもらうもいて、殆どの方が自力摂取する事が出来る。お互いに「果物が美味しかったなあ」と話し合いながら楽しい食事風景だった。出来る人には家事を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の1日の食事量や水分量を把握して摂取量のチェック食事形態の工夫を行っている。水分を嫌う方には飲み物をゼリー等に換えたりして声掛けの工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下体操により嚥下機能保持を行っている。口腔ケアの際口腔内の状態を把握して協力歯科医や歯科衛生士へ連携をとる協力体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力で排泄出来るように声掛けや排泄パターンから誘導を行い支援している。皮膚の状態等により下着の工夫をしている。	排泄が自立で布パンツの人も数名おり、パットも自分で替える人もいるが、タイミングを見て職員が誘導する事もある。入所当初は紙パンツにパットだった人が、職員の適切なケアと自立支援の結果、布パンツ+パットに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の際声かけにて水分補給の大切さを説明し体操や歩行訓練を行っている。飲みやすい物や寒天ゼリー等を提供し工夫し支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日としている。本人の意向等に合わせて入浴出来るようにしている。入浴が嫌いな方はご家族の協力もお願いして気持ちよく入浴出来るように工夫し清潔を心がけている。	入浴はマンツーマンで一部介助や見守りで対応しているが、拒否の激しい人の場合には家族と連携しながら職員との3名体制で対応している人もいれば、同じ様に拒否があっても気に入っている職員となら入ってくれる人もいる。また、一番風呂の好きな人もいる等、その人に合わせた声かけや対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調に合わせて日中の活動や休息、就寝時の入眠時間を工夫し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効能副作用等都度看護師より職員に理解確認を行っている。ご家族には、都度状況や薬の処方等の連絡を行い症状を記録に残して主治医看護師ご家族職員の連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から好きな事を探して運動やクラフト活動散歩や季節の行事等を行っている。家事手伝い等は職員とともに役割を持つように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	生活の中から本人の希望等意向を聞く様にしている。好きなもの買ったり外出に出掛けたりご家族に伝えて一緒に過ごす時間を設けたり支援している。今まで出かけていた事があればご家族の了承を得て外出出来るように支援している。	職員の人数的関係があり、今は外出が少ないが、暮らしの中に変化を作り非日常を楽しんでもらおうと、秋の一日旅行を計画したり、花見やドライブ、外食等に機会を設けて出かけている。家族との個別外出も支援しており、天気の良い日は日光浴をしたり、散歩に出かけて気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルが起きないように利用時に本人が持ち紛失した場合の説明を行い理解していただいている。利用者にお金を家族から預かっていることを伝え購入出来ることを伝え支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が連絡したい意向あれば電話したり友人からの電話もご家族の了承を得て受けている。ご家族から本人への電話もいつでも受ける事が出来るようにしている。連絡の後混乱ないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるように、皆で作品作りを行い完成した作品をフロアーや居室に掲示し話題作りをしている。利用者が不快な思いや混乱をしないように席や空間の工夫をしている。夜間部屋に廊下の灯りが入り気になる方は、小窓等に工夫を行い支援している。	リビングには7段飾りのお雛様が置かれ、折り紙・ちぎり絵のお雛様、塗り絵等の作品が展示されている。テーブルや椅子をバランスよく配置して、利用者同士の関係にも配慮しており、皆で輪になってレクをしたり、創作活動をして活気のある共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーや長い廊下を歩行し職員と会話したり、混乱するときは席の工夫や場所を変え景色を楽しめる気分を変える場所を提供し支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用時に昔から愛用していた物や衣服等を持ち参して頂いている。居室は居心地よく安全に過ごせるように本人ご家族の意向から環境作りを支援している。	自分なりの生活スタイルを好み、マイペースで過ごして壁中が手作り作品で飾ってある居室もあれば、家族の写真や使い慣れた家具を持ち込んでゆったり過ごしている人もいる。本人にとって住みやすい工夫が随所に見られ、清潔で居心地の良い環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活が出来るように環境整備を行い安全に使用する説明を行うようにしている。職員が本人と一緒に使用して理解できるように支援している。		